

1704 R.I アディーレ法律事務所

ディレクトフォース

「ディレクトフォース」という言葉を初めて聞いたとき、私には何をするのか全く分からなかった。また、8月3日に実際に行くまでは正直に言うと、そんなに楽しいものではないだろうと思っていた。

私たちが会場に入ると、まず国際エネルギー機関の前事務局長であり、笹川平和財団現理事長である田中伸男さんがお話をしてくださった。国際エネルギー機関というのは、1974年の第一次石油ショックをきっかけに設立された機関で石油の流通量や価格の調整をしていて、エネルギーの番犬とも呼ばれている。今現在、地球の環境問題が話題になっているが、それはエネルギー政策の問題でもあるという。もし日本で電力の供給ができなくなった場合、日本は他国から電力を分けてもらう必要が出てくる。そのため万が一に備え他国と協力し電力網を整備するといいいのだが、日本は島国のため、それが難しい。またその前に日本では西日本と東日本で周波数が違うという問題がある。しかし、どんな問題も以前からしっかりと準備することで防ぐことができる。そのようなお話をしていただいた。日本は島国ということで、利点もあるが難しい問題もたくさんあるのだ、ということを感じた。

最初に個別にお話を聞いたのは、守屋雅夫さんというキューピーに勤め、今のキューピーを創った第一人者の方だった。キューピーでは商品開発に携わっており、中国でも勤務経験があるそうだ。

守屋さんは日本は平和だが、中国は人間的にも経済的にも貧しいと感じたそうだ。また、商品開発に安全性は常識であり「どうやって他社に勝てるいいものが作れるか」だけを考えて開発に取り組んでいた、とお話してくださった。これから私たちが生きていくなかで成功するためには失敗することは絶対必要であり、そのためにはチャレンジすることが必要不可欠。また、失敗した後に逃げずに失敗した理由をしっかりと考えることが何よりも重要だと言っていた。

次に小林義之さんにお話を伺った。小林さんは海外のメディアが日本のことを取材するのを手伝う仕事などをしていた。外国に留学し現地の言語や文化を学ぶには現地の友達を作りコミュニケーションをとるのが一番だが、コミュニケーションをとるために相手のことを尊重するにしても限界があるため、コミュニケーションを間違えたときの対処法を考えることが大切だ、と言っていた。また、イメージで相手をとらえるのではなくきちんと相手を見て接し、相手の要望に200パーセント答えられるように努力することも重要だとおっしゃっていた。

3番目に話を聞いた藤村峯一さんはブリヂストンに長年勤めていた方で海外赴任を何回も経験している方だった。私たちが就職する際に一番求められているのは即戦力で、

日ごろから論理的な思考ができるように自分を鍛えておくことが大切だと言っていた。また、海外で働いてみて、日本人のよさは真面目に働くことだが、一方で日本人に足りないところは自己主張だと感じたそうだ。

最後にお話を伺ったのは信氏健人さんだ。信氏さんは高校生の時、東日本大震災を見て自分も災害支援のボランティアをしたいと思い、

今年豪雨にみまわれて大変だった地域の災害支援に行ったそうだ。そこで、活動をするうちにボランティアは自己満足の活動であるため、相手に迷惑をかけないようにしなきゃいけないということが一番強く感じたそうだ。

たくさんの方々のお話を伺い、学ぶことが多くあり、とても充実した楽しい時間を過ごすことができた。お話を聞いたどの方もおっしゃっていたのがこれからはグローバル化がますます進み、海外に移住することもあるかもしれない。そんな時一番大事なのは言語をがんばって習得し話そうとすることではなく、現地の人と積極的にコミュニケーションを取ろうとすること。無理に言葉の話そうとするより、何も話さなくても身振り手振りなどで積極的にコミュニケーションを取ろうとするほうが案外相手には伝わるそうだ。私はこの話を聞くまで外国の人とコミュニケーションをとるには言葉しかないと思っていたのでびっくりした。そして、コミュニケーションには心が一番大切だと気付いた。私もいつかは海外に行ってみたいと思っている。その時は今回学んだことを実践してみたいと思う。

最後に今回このような素晴らしく貴重な体験ができたのは多くの方々の協力があったからだ。そのすべての人たちに感謝の気持ちを伝えたいと思う。本当にありがとうございました。

企業大学訪問 〈アディーレ法律事務所〉

「アディーレ法律事務所」。みなさんが一度は聞いたことのあるこの名前。全国に76拠点あり、数多くの弁護士の方が在籍していらっしゃる非常に大きな法律事務所だ。私はこの事務所を訪問し、数多くの貴重なお話を伺うことで、とても有意義な時間を過ごすことができた。そして、自分の将来について深く考えるよいきっかけとなった。

私は弁護士の方の直接お会いするのは初めてで、とても緊張していた。私は、弁護士というのは自分からしたら雲の上の存在で、とても堅苦しい、というイメージを持っていた。しかし、実際にお会いするととても気さくな方で丁寧に私たちの質問に答えてくださり、お話しするのがとても楽しかった。

弁護士の仕事は様々だが、一番知られているのは刑事事件で警察などから容疑をかけられてしまった人の弁護をする仕事だろう。容疑をかけられてしまった人が警察の取り調べを乗り切ることができるよう事前対策をし、検察官に対して前科がつかないよう積極

的に働きかける。しかし、実際にアディーレ法律事務所に相談されるもので多いのが離婚問題や、事故による慰謝料請求で、次に多いのが残業代請求や不当解雇などの労働事件。ここ最近はこの労働事件に関する依頼が増えているようだ。

弁護士をしていて苦勞することを伺ったところ、依頼人の方が弁護士に対して非常に感情的になって自分の気持ちをぶつけてくること、年末・3月などの時期に仕事が集中するなど一年の中で仕事量にばらつきがあることで、仕事が多いときには普通のサラリーマンと同じように残業をすることもあるようだ。また、弁護士というのは主に書面で敵である検察などとやり取りをするので書面の作成には非常に神経を使うともおっしゃっていた。

そして、弁護士として一番なくてはならないのが、依頼人の方からの信頼だ。事務所に来る依頼人の方は非常に感情的になっていることが多いため、広い心を持って冷静に நடமெருること、また弁護士というのは依頼人あつての職業で、いわゆる接客業のため、コミュニケーション能力を磨くことも信頼を得るための大事なことなのだそうだ。

最後に、高校生の今私たちにできることを伺った。やはり今の私たちにできるのは『勉強』だ。今勉強することが将来の自分にとってプラスとなるのは間違いない。また、選挙権を有する年齢が18歳に引き下げられた今、私たちは2、3年後にはもう選挙権を得ることとなる。選挙をするとき、候補者の考えをより明確に理解し、正確に投票するためには、自分も最低限の政治に関する予備知識をしっかりと持ち、よく考え投票することが今の私たちに必要なことだそうだ。

今回の訪問で弁護士という仕事をより身近に感じることができた。そして一番思ったことは「弁護士になりたい!」ということだ。今までは漠然と感じていたその思いをより強く感じられるようになった。弁護士というのは、法的な観点から困っている人を助ける仕事だ。つよい正義感、そして相手を思う思いやりの心が必要だと思う。今の私を客観的にみると、正義感、そして思いやりの心、これは何よりも欠けていることだと思う。多少のことだったら…、と悪を許してしまう、自分に甘い自分がある。また、どんなことにおいても他人より自分優先で考えてしまう心の狭い自分がある。しかし、この二つは弁護士に限らず社会に出たときに絶対に必要なことだと思う。そして、今、私が乗り越えるべき最大の課題だと思う。高校生の今のうちから少しずつ自分を鍛えて心が広く、思いやりを持った誰からも尊敬されるような大人になりたい。そして、将来自分が弁護士になっている姿を見て、弁護士になりたい!と思ってくれる人がいる、それが、私の理想の姿だ。